

## 私達の安全活動

伊那・黒河内担当区事務所 ○山 本 康 弘  
平 田 栄 一 荒 川 茂  
北 原 三 男 縄 稔  
小 松 守 雄 伊 藤 正 人

### 要 旨

安全は、快い職場環境のもとで、健康な心身と一人ひとりの自覚、日々の取組みの積み重ねから成立つものと考えている。

私達は、十人十色の仲間が仕事を進める上で、チームワークが重要と考え、お互いの気持を大切にする「思いやり運動」と、仕事をする上で重要な道具に対し「道具は良きパートナー運動」を進めている。

今回、私達が日頃考え、取り組んでいる2つの運動を中心にした安全活動を紹介したい。

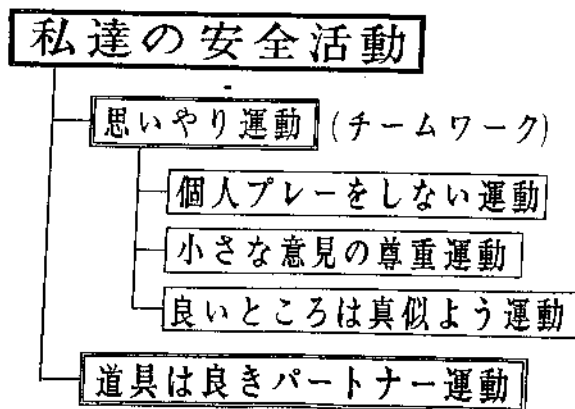


図-1

### は じ め に

亜高山性の急峻な地形の多い環境の中で刃物を使った作業は特に気をを使う。今までの経験や過去の災害事例による教訓などから、考え方や性格の違う仲間が仕事を進める上でチームワークが大切と考え、「みんなで考えみんなで実行」をモットーとして「思いやり運動」と「道具は良きパートナー運動」を実行した結果、昭和59年11月から現在まで無災害を続けている。

#### 1 黒河内担当区の概要

1. 事業地：上伊那郡長谷村 黒河内国有林の3,113 haを対象に、面積の約7割を占めるカラマツ

造林地の保育と、黒河内林道の維持修繕を中心として作業をしている。  
傾斜は総体的に急峻である。

2. 人 員：事務所2名、自動車運転手3名、造林班7名、林道班2名、計14名で平均年齢53歳
3. 山 泊：造林班＝冬期は全員、夏期は一部山泊
4. 造林班の特徴

班員は7名だが、造林一筋という人は少なく、大半の人は生産や林道を経験した多様なメンバーの集まりであるので、いろいろな考えや意見を持っている。ここから生まれるアイデアを日頃の仕事や安全活動に生かしている。

#### II 思いやり運動

この運動は仲間の気持を大切にし、お互いに協力して、ひとは皆のため、皆はひとりのために助合い、チームワークを強めるものであり、次に挙げる3つの運動から成立っている。

1. 個人プレーはしない運動

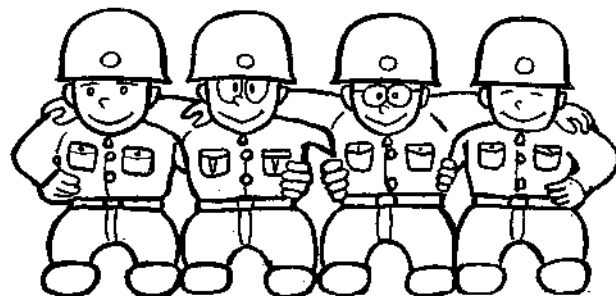


図-2 個人プレーはしない

ひとりだけ自分勝手なペースで行動をすると、仲間のもとより自分自身も危険な状態に陥ることになる。このような状態を避けるためには、常に周囲の仲間の位置、進行状態を確認するとともに、お互いの体力、技量、その日の体調を頭の中に置き、連携作業を進める運動である。

例えば、作業中に近付くと、お互いに「接近注意!!」と声を掛合って注意を喚起し、残りの作業が少なくなった時は「俺がもらった」「それまかせた」と自分の持分を確認し接近作業を防止している。

また保育間伐の作業方法のひとつとして、横押し方式を取入れている。

この方法は、まず樹高の1.5倍以上の間隔をとって作業を始め、前方の人の進行状態に応じて、自分の持幅を調節し、作業間隔を保ち、上下作業と接近作業を排除する方法である。安全で作業のしやすさを考えると、この横押し方式が適しているので実行している。

保育間伐では原則としてこの方法を取り入れているが、山の地形や作業面積により、人数を調節したり、他の方法も採用するなど、ケースバイケースでその場所に一番適した作業の方法、段取りを決めている。

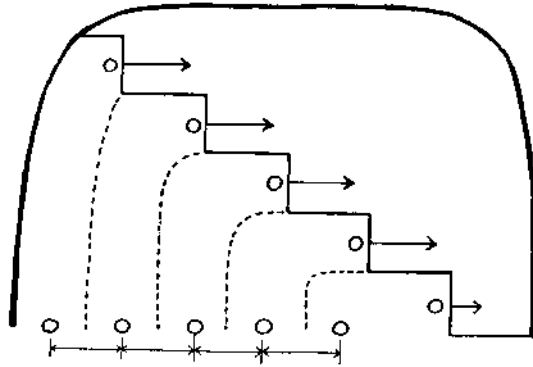


図-3 横おし方式

## 2. 小さな意見の尊重運動

この運動は「みんなで考え、みんなで実行」、「ひとりの多言より全員の少言」をモットーに安想や、ミーティングのときには各人が積極的に発言し、この時に出されたどんな小さな意見でも、みんなで尊重し、無視したり、けなしたりすることをしない運動である。

自分の考えを発言することで自らの責任感と安全意識を高めると同時に多くの良いアイデアが生まれて来ている。

- (1) 歩道の行き帰りには小枝、小石など小まめに片付ける。
- (2) 歩道の危険カ所にはロープを張り、唐鍬を備えておく。
- (3) 棧橋にはスベリ止めのコモを巻く。

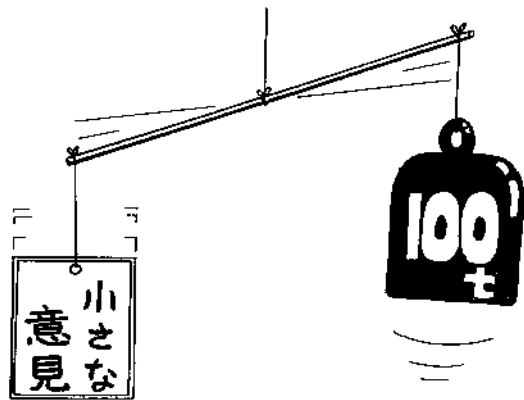


図-4 小さな意見の尊重

- (4) 寒い時でもポケットへ手を入れて歩かない。
- (5) マイクロバス乗車時は全員で安全確認をする。
- (6) 安全体操、作業前の声掛け運動、安全日誌の記入は当番で全員が実行する。
- (7) 仕事に入る前にその区域の危険カ所や注意事項を徹底する。
- (8) 各人が作業現場の凶面を持ち作業の進行状況、段取りを頭に入れる。
- (9) 役割分担を徹底して作業に入る。

このように、あたりまえ、小さなことではあるが、これらを積み上げて安全作業を進めている。

## 3. 良いことを真似よう運動



図-5 良いことをまねしよう運動

我が造林班には生産、林道などいろいろな業務を経験した多彩なメンバーが顔をそろえ、それぞれが違った長所を持っている。人の持っている良い所、自分の持っていないもの、見習わなければならないことを自分の目で探し出し、積極的に自分に取り入れようとするものである。

例えば、

- (1) 指差呼称のうまい人
- (2) 道具の知識が深い人
- (3) 道具の手入れや使い方のうまい人
- (4) 山々をくまなく知っている人
- (5) 健康管理のうまい人

この運動により自分が知らず知らずのうちにしている危険行動を無くすことができ、各人各人の知識や技量のレベルアップに役立つと同時に、お互い尊敬する気持が生まれ「思いやり運動」や「チームワーク」の輪が広がり、会話の幅も広がって厳しい職場も以前より明るくなった。

以上の3つの運動により作業と心の連携を強める「思いやり運動」を進めている。

### Ⅲ 道具は良きパートナー運動

この運動は安全上、能率上、作業を進める上で大きな影響力を持っている道具は、私達が仕事をする上で仲間と同様、大切なパートナーである。

言葉を持たない道具なので、自分が道具の持っている本来の機能や性格を理解し「正しい選択」、「正しい手入れ」、「正しい使い方」などによってその力を十分に発揮させるとともに、安全の確保に努めるものである。

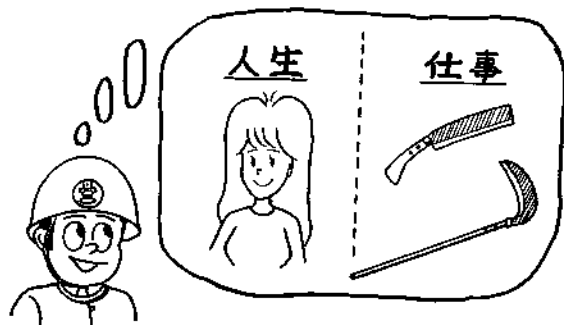


図-6 道具は良きパートナー運動

普段心掛けていることは、

- (1) 良い切れ味を保つためこまめに研ぎ上げる。
- (2) 柄は自分に合った長さに調整する。
- (3) ノコの斜め切りは原則としてしない。
- (4) ナタやカマは力まかせに無理をして使わない。
- (5) 刃物を使った後は直ちにサヤに収めるか刃覆いをする。
- (6) 使用頻度の少ない道具はなるべく持たない。

特に除伐時の災害を見るとナタによる災害が多く、その割にナタの使用頻度は少なく、除伐ガマだけでも十分作業ができる。しかし、緊急時などの時のため一人か二人が携行している。

#### 1. 道具の工夫

他署での道具に対する工夫と、自分達のアイデアを併用して取り入れている。

- (1) ナタやノコのサヤ抜け防止のゴムバンド。
- (2) カマの柄のスベリ止めのゴムバンド。
- (3) ノコのサヤ抜け防止に赤テープを厚めに巻く。
- (4) 各道具に目印のため赤テープを巻く。

赤テープはその色から、注意力を喚起し、気を引き締める作用と置き忘れた時、探しやすいという利点がある。

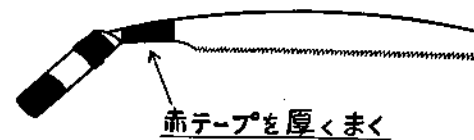
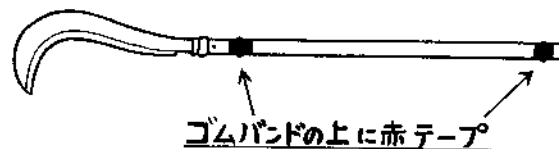


図-7 道具に対する工夫

これらのアイデアを取り入れることにより、ヤブやササの中を歩く時、知らないうちにナタがサヤから抜けかけていることもなくなり、道具の紛失もなくなった。

#### 2. 除伐ガマの改良

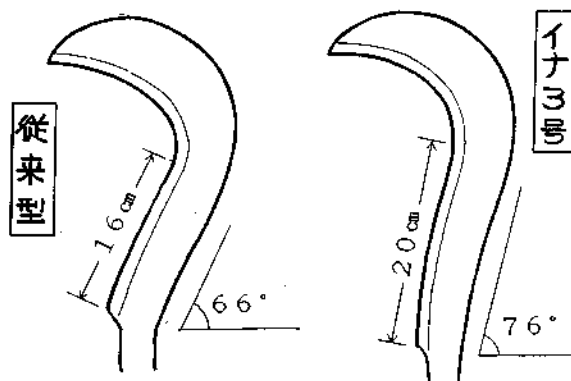


図-8 除伐ガマの改良

従来から使用していたカマは切れ味が悪く、刃が良く欠け、体の疲れが大きいため、伊那3号を考案した。

主な改良点は、

- (1) 刃の横の部分長くした。
- (2) 刃の反り角を浅くした。
- (3) 全体的に厚みを薄くした。

の3点で、この結果、従来型の欠点を解消でき、作業もはかどるようになった。

この運動を通して道具に対しての研究心が高まり、行き届いた手入れや道具に合った使い方ができるようになり、道具に対し愛着が増し道具が長もちするようになった。

お わ り に

以上、私達の安全運動はそれぞれがあたり前のこと、小さなことばかりである。しかし、私達は日々の安全活動の取組みを一つひとつ積み重ね、決めたこと、定められていることを確実に守り、昭和59年から続いている無災害をさらに続けるよう一日一日努力していくものである。

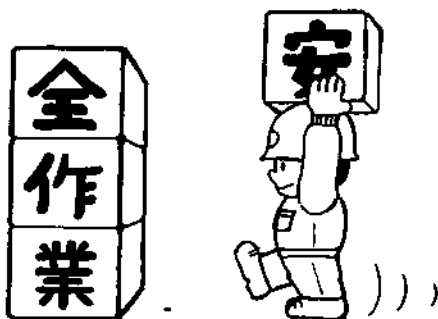


図-9 安全は一つひとつの積み重ね